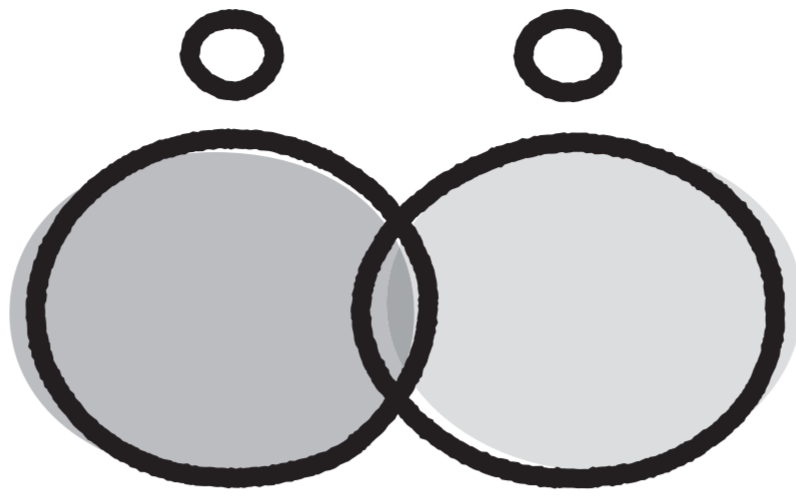


わたしたちに今できることはなにか 出会う 思う つながる。



分別で徹底リサイクル。

東松島市のがれき処分場。被災者を雇用し、手作業によって可燃物を19種類に分別している。



今できること プロジェクト

【被災地視察バスツアーレポート③】

被災地を訪ねることで わかりあえることがある。

今できることプロジェクトは1月29日、3回目となる「被災地視察バスツアー」を実施しました。今回は東松島市と仙台市の被災地を訪ね、復興に向けた構想や仮設住宅で暮らす被災者の思いを伺いました。
詳細は、今できることプロジェクト特設サイトでもご紹介します。



太陽光発電を学ぶ新拠点。

東松島市にできた太陽光発電工事専門学校。大規模な太陽光発電プロジェクトの推進に向けて、人材育成の拠点になっている



水田だった土地の行末。

東松島市東名の水田。海水に浸かり、被災した建物や車が放置されたまま。水田に復旧させるか、このまま湿原として自然の姿に戻すのかが議論になっている。



聞いて初めてわかること。

被災地の人々の話にじっと耳を傾ける。当事者の生の言葉は時に熱く胸を打ち、時に重く響く。

環境未来都市へ 産官学民が連携

【東松島市】

東松島市では、行政と民間をつなぐ組織として市などが設立した一般社団法人「東松島みらい」とし機構を訪問しました。産学官の連携に地域住民が加わり、一体的に市の復興計画を進める点が特徴です。

専務理事の大村道明さんは、市の復興構想について、自然の摂理に沿った人間社会の構築を基本理念とし、持続可能な環境未来都市を目指すことを説明。農地に設置する太陽光発電や沿岸被災地でのバイオマス燃料栽培など約30の事業計画を紹介してくれました。森の中に、自然を生かした学校を整備するプロジェクトもあるそうです。大村さんは「復興を進め、人間らしい暮らしによって生きていける地域にしたい」と話していました。

同機構の渥美裕介さんは、市のがれき処分場と太陽光発電工事専門学校を案内してくださいました。市は手作業による分別も導入し、可燃物の97%をリサイクルしているそうです。東名では、海水が田畑に入り込んだままの地域も、復旧させるか、現状のまま自然に戻すべきか、難しい問題となっています。

「農業の希望に」 社名に復興の願い

【東松島市】

東松島市赤井の「イグナルファーム」は、被災した農家4人が2011年12月に設立した農業生産法人です。名前には、消費者、会社にかかわる地域の農業、みんなが「いぐなる」（良くなる）ようにとの願いが込められています。

同社は事業再開のスピードを重視し、国のモデル事業を活用。農協が国から補助を受けて建設したハウス3棟を借り受け、パート従業員含めて18人でキュウリとトマトを栽培しています。



東松島みらいとし機構は、地域資源の中で雇用や豊かな暮らしを生み出す復興構想を掲げている

最近普及が進んでいる水耕栽培ではなく、昔ながらの土を使った栽培にこだわっています。

社長の阿部聡さんは震災で妻と子ども3人、祖母を亡くしました。「仕事だけは」と考えて設立に奔走したそうです。「被災農家の希望となり、農業の未来をつくりたい」と話していました。



栽培中のキュウリや事業の課題などについて説明する阿部さん

互助の仮設生活 地域再建に意欲

【仙台市】

仙台市宮城野区の岡田西町公園仮設住宅では、入居者の方々に集まっていた、暮らしぶりや今後の不安、地域再建への意欲などを伺いました。

ここは津波で被災した宮城野区南蒲生地区の住民52世帯が入居しています。いち早く自治会をつくり、住民同士の交流を図ってきました。

南蒲生町内会は昨年、「復興部」を組織し、集団移転の対象となる災害危険区域と現地再建地区の住民が一体的な地域づくりのために話し合い、市にも自主的な復興計画を提出しました。復興部の二瓶明美さんは「蒲生の再生を盛り上げ、地元から離れた人にも戻ってきてもらえる街をつくりたい」と意気込んでいました。

低炭素や「減災」 新しい街目指す

【仙台市】

仙台市若林区の荒井東地区は、市地下鉄東西線荒井駅（仮称）が2015年度に開業する予定で、新しい街づくりの構想が進んでいます。さらに周辺は沿岸部の津波被災者の移転候補地にもなっており、注目が集まっています。

ツアーでは、構想の推進母体として設立された「荒井東まちづくり協議会」事務局長の神原進さんから話を伺いました。

神原さんは、地権者や民間企業が連携して環境負荷の少ない「スマートシティ」を目指す構想を説明。住民同士の交流やにぎわいの創出、低炭素、減災などを重点項目に掲げている点を紹介し、「先進のエコライフと豊かなコミュニティで次代の暮らしをリードする街づくりを目指したい」と語りました。



荒井東のまちづくり構想について話す神原さん

参加者の声

 <p>日本たばこ産業仙台支店 今松 純一さん</p> <p>悲惨な経験をしながらめげずに前に進もうとしている被災者がいる。一方で、行政や国、ボランティアなどのさまざまな支援がまだ足りないと感じました。</p>	 <p>一般社団法人 日本いちのり電話連絡事務局長 岡本 正子さん</p> <p>被災地の人々の復興に向かう意欲を感じました。その心意気に、未来に向けて宝の山が築かれているようにさえ思えます。</p>
 <p>HI東北支社 阪本 俊司さん</p> <p>可燃物を手で分別処理し、再資源化している東松島市のがれき処分場に感銘を受けました。また、被災農地や農家が抱えている問題について考えさせられました。</p>	 <p>三井物産東北支社 田辺 創一さん</p> <p>被災者や復興にかかわる人の話を直接聞いたことで、ただ風景を眺めるだけではいふん違う印象を受けました。</p>

●私たちが、被災地支援のため「今できること」をともに考え、このプロジェクトを推進していきます。

HI/アヴィエスホーム/アサヒビール 東北統括本部/いのちの電話 震災ダイヤル/岩手日日新聞社/岩松旅館/エイチ・アイ・エス/NTTデータ東北/鹿島建設 東北支店/キリンビールマーケティング 東北統括本部/ケーズデンキ/コセキ/サッポロビール 東北本部/サントリービバ&スピリッツ 東北支社/JA全農みやぎ/JT 仙台支店/鈴木工業/住友生命 仙台総合支社/住友林業 仙台支店/青南商事/セキスイハイム東北/石油連盟/仙台コカ・コーラボトリング/仙台商工会議所/仙都タクシー/第一生命 仙台総合支社/大東住宅/タゼン/東海東京証券/東北三菱自動車/一般社団法人 日本手芸学会/日本政策金融公庫 仙台支店/日本製紙/日本製紙クレシア/日本生命 仙台支社/はとバス/東日本大震災事業者再生支援機構/ビルワーク/富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ/ベルモードスズキ/ペロタクシー/北洲ハウジング/ホテル佐助/三井物産/三菱地所グループ/宮城県遊技業協同組合/みやぎ生活協同組合/宮城第一信用金庫/宮城中央ヤクルト販売/明治安田生命 仙台支社/リコージャパン 東北営業本部/河北新報社(順不同)

◎後援/宮城県、仙台市、宮城県市長会、宮城県町村会、宮城県教育委員会

【お問い合わせ】今できることプロジェクト事務局/河北新報社営業部 tel 022-211-1318